

社会 第5学年 情報社会に生きるわたしたち

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。日本文教出版の年間指導計画にある「情報を生かして発展する産業」に対応した独自案。教材本文・挿絵・問題文は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

本案で見るのは、児童が「集めた情報は、産業の仕事と私たちの暮らしをどう変えているだろうか」に対し、資料の事実と考えを区別して答えられるかである。情報や情報通信技術の活用は産業を発展させ国民生活の向上に役立つというまとめを暗唱できるだけでは、本時の目標に届いたとは判断しない。販売や運輸など取り上げる産業を選び、どんな情報がどこで集まり、誰に届き、どんな判断に使われるかを図にする。情報を使う前後の仕事を比べ、働く人と利用する人の利益や必要な配慮を考える。根拠の指し示し方や説明の修正を見ることで、教師は次に何を確かめればよいかを判断できる。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第5学年〕(4)	(4) 我が国の産業と情報との関わりについて、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
〔第5学年〕(4)ア(イ)	(イ) 大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解すること。
〔第5学年〕(4)ア(ウ)	(ウ) 聞き取り調査をしたり映像や新聞などの各種資料で調べたりして、まとめること。
〔第5学年〕(4)イ(イ)	(イ) 情報の種類、情報の活用の仕方などに着目して、産業における情報活用の現状を捉え、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。

単元の目標

情報や情報通信技術の活用は産業を発展させ国民生活の向上に役立つことを理解し、地図・写真・統計・説明資料と調査記録を扱う技能を身に付ける。「集めた情報は、産業の仕事と私たちの暮らしをどう変えているだろうか」を追究し、根拠を基に考えを表す。自分の記録を見直し、分からないことを確かめながら学習に取り組む。((4))

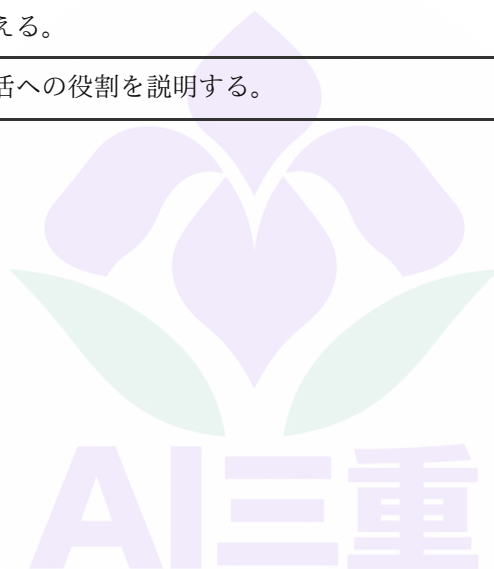
評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①情報や情報通信技術の活用は産業を発展させ国民生活の向上に役立つことを理解している。 ②地図・写真・統計・説明資料と調査記録について、対象、条件や時期、調べて分かったことを区別して記録している。	①「集めた情報は、産業の仕事と私たちの暮らしをどう変えているだろうか」について、人々の働きや資料同士の関係に着目し、根拠を挙げて説明している。	①情報を生かして発展する産業の学習で生じた疑問について、自分の記録や友達の考えを基に調べ方や説明を見直し、解決しようとしている。

単元の流れ

日本文教出版の年間指導計画の配当「全6時間」を参照。全6時間はcatalog収録の標準配当。以下の各次への配分と本時の位置は本資料の授業案であり、出版社の授業配当の転載ではない。学校の年間計画と観察・調査の進み方で調整する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○身近な情報を使うサービスから疑問を出す。	知①・知②（記録・活動の観察）
第2次	2	○産業で集める情報の種類を調べる。	知①・知②（記録・活動の観察）
第3次	3	○情報が届き使われる流れを図にする。	知①・知②（記録・活動の観察）
第4次	4	○仕事と利用者の暮らしの変化を考える。	知①・知②（記録・活動の観察）
第5次	5 （本時を含む）	○便利さと情報管理の必要性を比較する。 ○販売や運輸など取り上げる産業を選び、どんな情報がどこで集まり、誰に届き、どんな判断に使われるかを図にする。 情報を使う前後の仕事を比べ、働く人と利用する人の利益や必要な配慮を考える。	思①（個人の説明・記録）
第6次	6	○産業と国民生活への役割を説明する。	態①（記録の見直し・振り返り）



本時の案

本時の目標：「集めた情報は、産業の仕事と私たちの暮らしをどう変えているだろうか」について、資料の事実を示しながら自分の考えとその理由を説明できる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	○前時までの記録から「身近な情報を使うサービスから疑問を出す」ときの疑問を取り出す。 ○「集めた情報は、産業の仕事と私たちの暮らしをどう変えているだろうか」 【めあて】調べた事実を使い、自分の考えと理由を説明しよう。 ○一人で予想と理由を書き、調べたい点を確認する。 〈予想される児童の反応〉 ・情報や情報通信技術の活用は産業を発展させ国民生活の向上に役立つのか確かめたい。 ・前の記録と比べると違いが見つかりそう。	・答えを先に示さず、児童がどの記録を根拠にしたかを尋ねる。 ・実際の顧客データや児童の個人情報を集めない。公開資料の範囲で情報の流れを図示する
展開 （ 分）	○前時までの観察・調査の記録を使う。以下に示す調べ方を振り返り、本時は問いに関係する記録を比較する。追加の実験・調査は方法を計画し、次時に確かめる。 ○販売や運輸など取り上げる産業を選び、どんな情報がどこで集まり、誰に届き、どんな判断に使われるかを図にする。情報を使う前後の仕事を比べ、働く人と利用する人の利益や必要な配慮を考える。 ○「どの資料の事実から、そう考えましたか」 ○自分の説明を相手に示し、根拠が同じか違うかを比較する。 ○説明できない記録があれば条件や資料の読み方確かめ直す。 〈予想される児童の反応〉 ・同じだと思ったが、比べるところをそろえると違いがある。 ・この記録だけではまだ決められない。 ・仕事と利用者の暮らしの変化を考えることで、理由を確かめたい。	・コンピュータがあるから便利という説明を、情報の種類と使われる判断まで具体化する。個人情報を多く集めればよいとはまとめず利用目的と管理の資料を読む ・結果に合わない意見も記録へ戻る材料として取り上げ、発言した児童を責めない。 ・比較が難しい児童には記録の対応する箇所を指し示し、まず事実を口頭で説明させる。 ・本時に単元全体の実験や調査をやり直さない。比較する記録を準備し、方法を確認する必要がある部分だけを実物で示す。 ◎思①「集めた情報は、産業の仕事と私たちの暮らしをどう変えているだろうか」について、人々の働きや資料同士の関係に着目し、根拠を挙げて説明している。 （個人の記録と説明。交流前後の変更理由を含めて見る。）

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
まとめ （ 分）	○本時の問いへの答えを、根拠となる資料の事実とともに書く。 【まとめ】情報や情報通信技術の活用は産業を発展させ国民生活の向上に役立つ。 ○最初の考えから変わったことと、まだ調べたいことを記録する。 〈予想される児童の反応〉 ・考えが変わったのは、記録を比べたときに違いを見付けたから。 ・まだ確かめていない条件が残った。	・まとめは確認した資料の事実を根拠に書く。資料によって見方が分かれる場合は、作成時期・立場・対象を確かめ、未確認の点を残す。 ・振り返りで分かった支援の必要な点は次時の活動に反映する。 ◎知①（まとめの説明）／態①（記録を見直す過程。発言回数や文章量だけで判断しない。）

板書の構造

上段に「情報を生かして発展する産業」と本時の問い「集めた情報は、産業の仕事と私たちの暮らしをどう変えているだろうか」。左側に予想とその理由、中央に実際に調べた事実の記録、右側に事実から考えた説明を置く。中央は条件・時期・対象が分かる見出しにし、比較する記録を同じ高さに並べる。仕事と利用者の暮らしの変化を考える際に用いた記録を残し、根拠と説明を線で結ぶ。下段には確かめられたことと、まだ残る問いを分けて置く。発言の多い子の説明だけで仕上げず、個人の記録の違いを残す。

つまずきやすい所と手当て

コンピュータがあるから便利という説明を、情報の種類と使われる判断まで具体化する。個人情報を多く集めればよいとはまとめず利用目的と管理の資料を読む

準備するのは、学級で使う実物や資料と、対象・条件・時期を対応させて残せる記録用紙である。教師は事前に資料の出典や器具の働きを確かめ、児童に渡す記録と教師の説明を区別する。実際の顧客データや児童の個人情報を集めない。公開資料の範囲で情報の流れを図示する

本時の評価で説明と根拠が結び付かない場合は、言葉を追加して教え込む前に、比べる対象がそろっているかを見直す。口頭では説明できるが記述が難しい場合は、図と指差しも証拠として残す。

プリントの案

情報を生かして発展する産業の問いと記録

上段は「調べたいこと」と「最初の考え・理由」。中央は対象、条件・時期、分かった事実、確かめた方法の欄。販売や運輸など取り上げる産業を選び、どんな情報がどこで集まり、誰に届き、どんな判断に使われるかを図にする。情報を使う前後の仕事を比べ、働く人と利用する人の利益や必要な配慮を考える。下段に事実から考えた説明と残った疑問を書く。教材本文・写真は印刷せず、利用できる実物や公的資料の出典を書き入れる。

説明を確かめ直すカード

問い「集めた情報は、産業の仕事と私たちの暮らしをどう変えているだろうか」への自分の答え、根拠の記録、友達の説明との共通点・相違点、修正した箇所と理由の欄を設ける。修正しない場合も根拠を確認した理由を書く。文字を書く代わりに図や口頭説明の記録も使える。

出典：小学校学習指導要領（平成29年告示）。本文は取得済みの文部科学省表V1.2と照合。

（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校社会。評価の観点と記録を用いる考え方を参照。事例の文章は転載していない。

（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_shakai.pdf）／日本文教出版年間指導計画。単元名・配当時数・掲載時期の出典。（https://www.nichibun-g.co.jp/textbooks/s-shakai/download/r6/r6_shakai_nenkei_5.xlsx）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)

https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

